

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：石上保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：齋藤 留奈	定員（利用人数）：60名（59名）	
所在地：〒251-0025 神奈川県藤沢市鵠沼石上3-1-8		
TEL：0466-54-3311	ホームページ： http://tomoni.or.jp/office/nursery/index.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2010年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会		
職員数	常勤職員： 9名	非常勤職員： 15名
専門職員	園長 1名	主任 1名
	保育士 17名	調理師 4名
	事務員 1名	
施設・設備の概要	保育室 6	トイレ 4
	倉庫 1	調理室 1
	事務室 1	相談室 1
	沐浴室 1	更衣室 1
	エントランスホール 1	調乳室 1

③理念・基本方針

【保育理念】

すべての保育を必要とする子どもの環境整備に努めます。子どもの発達や成長に沿った保育や支援を行ないます。時代の変化にともなうニーズに即した保育と子育て支援をプロデュースします。～tomoni生きる～

【園の保育目標】

- ・優しい心
- ・生きる技
- ・健康な体
- ・体験し考える力

【保育方針】

- ・人とかかわり人を大切に作る心をつくります
- ・自然とかかわり自然を大切に作る心をつくります
- ・食育を重視し、安心して安全な食事を興味を持って食べられるようにします
- ・遊びを通して元気な体をつくります
- ・保護者と連携を強めて、それぞれの子ども達の成長を支えます
- ・地域と連携を強めて、地域と一緒に子ども達の成長を支えます
- ・障がい児保育にも積極的に取り組みます

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・定員60名の小規模な保育園のメリットをいかして、全職員で園児一人ひとりの育ちを温かく細やかに支えています。
- ・運動、絵画、音楽、製作などの様々な活動機会から、豊かな感性を育みます。
- ・園庭がない中、施設内の運動遊具（エアートランポリンやウォールクライミング等）、公園を活用しながら、段階的に運動機能の発達、体力向上を目指します。
- ・視覚的にみやすい新児童票を活用して、より細やかに園児一人一人の発達援助を行ないます。
- ・給食で郷土料理を味わいながら、日本の地域への興味を深めつつ、食への興味へとつなげます。
- ・法人内の認知症型グループホームとの交流をもちながら、園児の思いやりやいたわりの気持ちを育みます。
- ・異年齢交流を積極的に取り入れ、人とのつながりを小さな頃から体験していき、思いやりや自己抑制、自己発揮などの協調性、社会性を育てていきます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月16日（契約日） ～ 令和5年2月21日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2019年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)様々な環境を生かした保育の実践

園周辺には自然豊かな大きな公園があり積極的に戸外で活動しています。公園内には四季折々の草花や昆虫、池の生き物などを目にする機会があり、子どもの五感が育まれるよう、さまざまな自然に触れることで感じとれる匂いや小鳥のさえずり、自然事象などを楽しんでいます。園内でも、巧技台、ロッククライミング、フープなどで基本的な運動能力が身につく遊びを楽しんでいます。運動会を通じ、日頃の運動あそびの成果を披露しています。

2)職員全員で子どもの育ちを周知しています

法人保育部門独自の、児童表システムを活用しています。当初は、新人職員に子どもの育ちが視覚的に見えるように作られたシステムですが、すべての園児の発達経過をグラフにすることで、個々の成長の様子が見え子どもの特性を把握することができるため、現在では新人職員に留まらず、園全体で使用しています。年齢に対しての個々の発達を捉えることができ、クラスごとに統計するとクラスの特徴や傾向が視覚的に見えてきます。子どもの育ちを全職員が感覚と視覚で把握しやすいので、新人職員にもクラスの運営計画の方向性が見えやすくなり、保育の質の向上につながっています。

3)異年齢、異世代交流を通じて様々な人と触れ合っています

園では、法人内の認知症型高齢者グループホームとの交流をもちながら、園児の思いやりやいたわりの気持ちを育む機会があります。子どもたちは、園以外の大人との交流からも挨拶など社会でのマナーを身につけ、お年寄りの話を聞くなどして他者とのコミュニケーションを自然に学んでいます。異年齢交流を積極的に取り入れる事から、思いやりだけでなく、我慢をすることなど自分の気持ちをコントロールし、友だちへの協力など社会性も身につけています。

4)法人の中長期計画と園の各計画のリンクが望めます

園は事業計画として、前年度の達成度や実施中の中間報告をして事業の方向性を職員と共有して運営につなげていますが、園の中長期がありません。大きな福祉の動向として法人が定めた計画を園に周知する事が望めます。

5)苦情解決システム周知についての取組が期待されます

重要事項説明書に「ご意見・苦情・相談について」を記載しており、「受付方法」「相談・苦情受付担当者」「相談・苦情解決責任者」と、その他の相談窓口で「第三者委員」を載せています。しかし、保護者アンケートでは、第三者委員の周知度は7割弱に留まっています。第三者委員についての更なる周知へ向けた取組に期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育内容について良い評価結果をいただき、また、アンケートにおいても保護者の皆様から温かいお言葉をいただきました。

日ごろ子どもたち一人一人の理解、そして一人一人としっかりと向き合うことを大事に、職員一同保育してきた結果が結びついたことと思ひ、今後も自らを振り返り、自問自答を忘れず、誠意をもって保育に向き合っていく気持ちを新たにしました。

受審したことで、園の至っていない点についても、職員一人一人が再認識できました。マニュアルの周知徹底を図るとともに、いつ起きても不思議でない災害や防犯などの非常事態にも、できる対応をしっかりと取れるよう努めてまいります。

保護者の皆様にはご協力いただきまして感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり